

TOKYO SHOKO RESEARCH

TSR情報誌

夏季特集号

Vol.36

埼玉県市郡別 収益ランキング

特集

今考えるSDGs

～埼玉の最先端企業を訪ねる～

日本
の
彩
り
の
目
玉

笑顔ですべての苦勞が報われる

～株式会社日さく～



▲水栓に集まるガンビア共和国の子供たち。笑顔でいっぱいだ

昨年創業110周年を迎えた「株式会社日さく」は、井戸を掘る「さく井工事」を軸に特殊土木工事や地質調査を行う「地球」を相手にしたプロフェッショナル集団だ。当然、SDGsに関しては「トップランナー」としての自負と責任をお持ちのはずと思っていた。

しかし、今回対応していただいた総務部の山本真希子総務課長からは、非常に恐縮されてちょっとしたエピソードを披露していただいた。

「SDGsって、何？」

「それがですね……。2019年に『第2回JAPANコンストラクション国際賞』の建設プロジェクト部門を受賞し、国土交通大臣より表彰していただきました。これはODAの一環でセネガル共和国での農村地域における水供給プロジェクトを評価していただいたのことでした。その際、『まさにSDGsですね』と高評価をいただいたのです。今ならば目標⑥“安全な水とトイレを世界中に”と直結しているからと理解できるのですが、当時の私どもとしてはまさに『キョトン』として

しまったのです。社員の多くが『SDGsって、何？』という感じでした」

今では笑い話にできるのだが、それでも「まだまだ取り組んでいる最中なんです」と謙遜が続く。

「翌年、社長の訓示で、もっと一人ひとりがSDGsについて知ってほしいと話がありました。そこから少しずつ自分たちの業務をマッピングしていき、これまでの業務そのものが『社会課題を解決すること』につながっていることを理解していきました。身近な話としては、以前から取り組んでいた『彩の国ロードサポート』もSDGsに通じていることなんですね」（山本課長）

ISO管理室の福田七重課長は、山本課長から「どうしよう」と相談された一人だ。

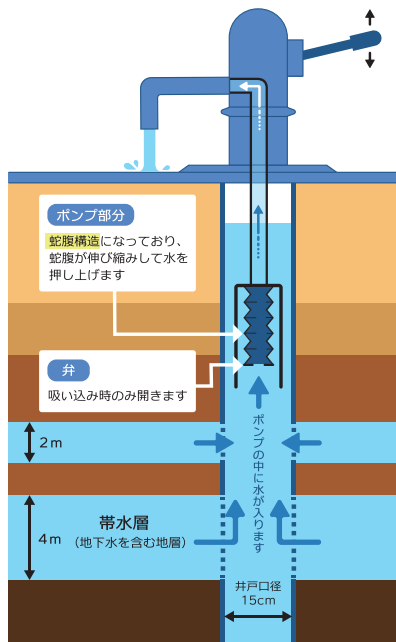


▲イエメンでのさく井工事。地球の恵みに感謝

「SDGsについて調べるうちに、例えば目標⑫の“つくる責任つかう責任”、というの、⑥同様にまさに弊社の事業そのものだと理解しました。確かに井戸を掘るのが事業の核ですが、作ったからそれでよしではないのです。使用途中のメンテナンスも大事ですし、さらに廃井（井戸を閉めること）までが本来の業務なんです。しかし、社内的に廃井という業務自体が年度にもよりますが10件未満と少ないこともあり、あまり注目されていませんでした。でも、SDGsを通じてすごく重要なんだと気が付いてきたんです」

使わなくなったと言って、仮に井戸を放置したままだとどうなるのだろうか。時間と共に井戸の中に有害物質が入り込む可能性がある。また、鉄板だけで井戸の開口部（入り口）をふさいでいる場合にうっかり踏み抜いて落ちたり怪我をしたりすることもある。さらに、豪雨などで一時的に地下水量が増えると周辺を水浸しにしてしまうこともあるというのだ。

「ですから、井戸を掘った私たちには終わりの「廃井」まで面倒を見るという、目標⑫の“つくる責任”があるのです。だいたい井戸の寿命というのは20～30年と言われていますが、定期的にメンテナンスを行うことで中には85年も使い続けられていた井戸もあります。こういう話をしていると、社内で本業そのものがSDGsにつながっているのだと、理解されるようになってきました。」（福田課長）



▲日さく製「防災井戸用ハンドポンプ」の下はこんな感じ

恵まれている日本。 お宅の水道水はどこから？

今年の梅雨は短く雨が少なかったことから、夏に向けて渇水が心配されるものの日本はよほどの災害が起こらない限り、水には困らない土地柄である。しかし、世界を見るとどうだろう。「生活のため水を運ばなければならない」と学校に行けない子どもたちがまだま

だ多く存在する。そんな国へ、地域へ、日さくのスタッフは出向いていく。そもそも、この行為そのものがSDGsであるとは言いすぎだろうか。

「水道がないのですから、そもそものインフラが整っていないのです。確かに、一度赴任すると一年、二年と滞在しなければならない、簡単には帰国できないところばかりですから、スタッフは本当に大変です。大変なのですが、井戸が湧き出したときの現地の皆さんの笑顔ですべてが報われると聞かされます。本当にお祭り騒ぎになるというんですね」（山本課長）

改めて、日本に生まれたことを感謝したい気持ちになる。日本は恵まれているのだ。

福田課長からこんなことを教えていただいた。

「意外と埼玉で多いのが『自分の家の水道が、実は川の水ではなく井戸水だった』という話です。上下水道が発達する中、井戸は防火用水や渇水対策のためだけと思われがちですが、そうではないのです。ですから、水源はどうなっているのかなど、興味を持っていただけるとうれいすね」

本社の敷地内には、防災井戸が設置されている。総務課の日高 愛主任が思いを語る。

「実際、井戸を掘る様子を見ていましたが、地域の皆さんと一緒に、水が出てきた喜びと共に、水の一滴一滴の大切さを感じることができました。また井戸を掘ったからといって、無限に水が出てくるものではないということも理解できました。名古屋市にある西日本支社でも同様に防災井戸を設置し、地域の皆さんに水の大切さを知っていただいているところです」



▲敷地内に設置された防災井戸。力いらずで簡単に汲みだすことができる

水もまた、限りある資源。ここ数年、新型コロナウイルスの影響で海外での事業は停止していたが、今年に入り再開したという。今まさにガンビア共和国へ出向き、井戸を掘り始めたところだという。さて、今度はどれだけの人たちの笑顔に出会えるのだろうか。

株式会社日さく

代表取締役社長 若林 直樹
住 所 さいたま市大宮区桜木町四丁目199番地3
U R L <https://www.nissaku.co.jp/>